

# アユのギロダクチルス駆虫法の検討

鈴木 隆夫

## ◆背景・目的

湖産アユの養殖では、ギロダクチルス属単生虫(下図)が寄生し、被害を及ぼすことがある。しかし、アユの駆虫剤として承認された水産用医薬品はなく、また、メーカーが駆虫剤を開発・承認に動く可能性は極めて低いことから、薬事法に抵触しない水道水や食塩等を用いた安全で、かつ効果的な駆虫法を検討した。

## ◆成果の内容・特徴

- ・供試剤として、食塩、水道水、食酢の効果調べたほか、海産魚で駆虫薬として承認されているマリンサワーについても同様に調べた。
- ・マリンサワーは、現行の用量で使うと濃度が高すぎて、アユに適用することは出来なかった。しかし、1/5の濃度で十分効果が認められ、処理15日後でも寄生は認められなかった。
- ・食酢は250倍希釈、30分間浸漬で一定の効果は認められたものの、費用的に実用化するのが困難と判断された。
- ・2倍希釈水道水、60分間浸漬と1.5%食塩水、2時間浸漬はほぼ100%駆虫できたが、15日後には対照区と同程度の寄生状態に戻った。2倍希釈水道水では、浸漬時間が90分間を越えると斃死が認められた。
- ・1.5%食塩水4時間浸漬では、15日後でも再寄生が認められず、有効な処理法と判断された。

## ◆成果の活用・留意点

水槽レベルではなく、より実用的規模での駆虫効果の確認を行う。また、効果のあった濃度に対して、より小型のサイズに対しても安全性に問題がないか確認する必要がある。

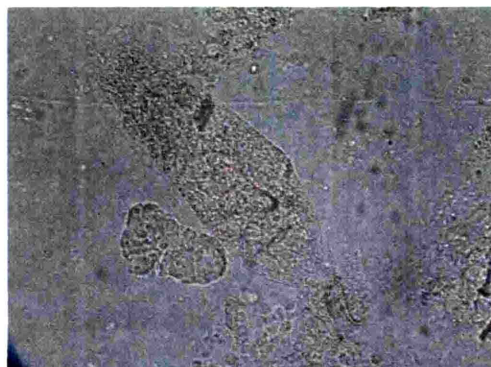


図 アユに寄生するギロダクチルス属単生虫